

青森県知事賞

おいしいお米を作りたい

是川小学校（八戸市） 五年 浪岡 透哉

ぼく達の学校では、五年生になるとお米作りになろう戦します。今年は、いよいよぼく達の番です。ぼくは、このお米作り体験をとでも楽しみにしていました。なぜかというと、ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんがお米作りで、田植えやいねかりの手伝いをしたことがあったからです。だから、ぼくはその手伝いで覚えたいことをやれば、ぜったいに上手くお米を育てることができるとかんたんに考えていました。

いよいよ初めてのお米作りが始まりました。すると、ぼくが思っていた以上に大変なことの連続でした。まずは、田植えです。ぼくのおじいちゃんの家では、機械を使ってお米のなえを植えます。だから、ぼくはいつもなえを機械まで運ぶ手伝いをしていました。でも、学校では手で植えます。長い時間、こしを曲げているのはとてもつらくて、ドロドロの土で何度も転びそうになってしまいました。

次に大変なのが、毎日の観察です。元気に育っているのか、病気になっていないかを見に行かなければならないのですが、つい遊びに夢中になってしまったり、「だれかが見に行ってるだろう」と人まかせにしてし

まったりして、観察をさぼってしまう日がありました。そんなある日、先生がぼく達に、

「ちゃんと観察をしない人は、お米作りを止めなさい。」と言いました。その時、ぼくは、行かなかったことを、こうかいしながらも「一日ぐらい見に行かなくても、その分、次の日にしっかりと観察すればいいじゃないか」という思いもありました。でもすぐに、

「お米はデリケートだから、しっかりと見てあげないと、言っていたおばあちゃんの言葉や、朝と夕方、毎日かさず田んぼに行っていたおじいちゃんのすがたを思い出しました。」

ぼくは、田植えやいねかりを手伝ったことはあったけれど、なえの成長を見守るといっても大切な部分は手伝ったことがありませんでした。今回、お米作りにならないうちから、おじいちゃんおばあちゃんのような農家の人が、おいしいお米を作るために、毎日、大変な思いをしていることが分かりました。

今年の夏は、晴れの日が少なく、無事にお米を収穫できるか、とても心配です。でも、最後まであきらめずにしっかりとお米を育てていこうと思います。

そして、これからは、お米を食べる時、お米を育ててくれた農家の方を想って、感しゃして食べたいと思います。